

平成28年6月30日

平成27年度 学校関係者評価報告書

学校法人後藤学園
専門学校武蔵野ファッションカレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園専門学校武蔵野ファッションカレッジ「学校関係者評価委員会」は、平成27年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

1. 学校関係者評価委員（「専門学校武蔵野ファッションカレッジ学校評価要綱」による選出）

- ・学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）
大塚 陽子 氏 東京ファッションデザイナー評議会議長
- ・卒業生（同第5条第2項第2号）
佐久間 守平 氏 レジュイール 代表
- ・高等学校校長、進路指導担当者等（同第5条第2項第3号）
山中 哲也 氏 東京学館浦安高等学校 教頭
- ・その他校長が推薦したもの（同第5条第2項第4号）
竹内 忠男 氏 スタジオ アヴニール 代表
金久保 薫子 氏 株式会社ビー 代表取締役

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	
【現状と課題】	【現状】 ・本校の教育目標は『優れた人格と実践力をもった人材を生み出すこと』と定めている。実践力の定義としては『ファッションの専門知識・技術と社会人基礎力を融合したもの』としている。 【課題】 ・教育理念・目的・育成人材像の各教員との共有が不足している反省がある。各授業は教育目的達成のための具体的行動であるはずだが、その目標共有が不足している。
【改善のための方策】	・アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを明確化し、各教員に育成人材像の理解を浸透させていく。
【関係者評価】	・教員だけでなく学生にも浸透させた方が良いです。カリキュラム・ポリシーのマニュアルを作ってプレゼンテーションするのも良いでしょう。 ・企業から見ると学生は学校で何を修得しているかが分かりづらいところがあります。自分が何を修得して来たのかしっかりと学生自身が話せるように落とし込み、理解させてください。

基準 2 学校運営	
【現状と課題】	【現状】 ・本学は校長のリーダーシップの基、教務部内に 2 つの課を組織している。 『教務課』 教育に関する運営と管理 『スチューデントサポート課』 学生の悩みや問題についての相談、メンタルヘルスの推進 ・学生指導については担当者を配置し、業務に当たっている。 『クラス担任制』 学生の生活面や礼儀、事務手続き等の指導 『就職指導』 両学科 2 年担任と教務部副部長が担当 『各行事運営』 教員が 2～3 名程度のユニットを組み運営にあたる。 ・人事評価に関しては個人ごとに課題設定評価、業務遂行評価、意欲行動評価を行い半期と年間での評価で教員一人一人の能力向上を組織的に行っている。 【課題】 ・教員としての能力と学校運営や募集活動も行う幅広い業務運営能力が求められるのがファッションカレッジ教務部の業務である。教員ごとに得意不得意、専門性があり一律の業務は難しい面がある。 ・時代の変遷に伴い生徒を送り出す先のファッション業界の業務も変わり、学生が身につけるべき必要な能力も変わりつつある。その変化に合わせて教育ができるよう、能力開発が必要である。
【改善のための方策】	・人事評価を有効的に使い、学校や担当科目の課題を発見していく意識と課題を解決していける能力の開発。 ・業界の変化をつかむ情報収集。企業との連携強化。
【関係者評価】	・世の中の動きがとても複雑になって来ています。どういう方向に向かって動いているか、まずは教員がよく理解し共有することが大切です。 ・これからはどんな状況にも対応出来る社会人基礎力こそ必要になることを認識する必要があるでしょう。

基準3 教育活動	
【現状と課題】	【現状】 ・期間限定ショップ【incubate】においては、平成25年度より導入したグループ間の競争を通して『目標の達成のために何をすべきか』を主体的に考え行動していく『前に踏み出す力』が身につく、平成26年度ではグループ間で議論し、協力して進めていく『チームで働く力』が身についてきた。平成27年度ではルーブリックを導入し、個人ごとの能力評価で実践教育の場として年々進化している。 ・『incubate collection ファッションショー』では時代感を意識した作品作りのアプローチ、その作品のショーでの魅せ方が競合校との違いとして明確になり『武蔵野のスタイル』が形になってきた。業界関係者からも賞賛され、自信を持って見せられるレベルに到達してきている。 【課題】 ・ファッション業界と整合性をもった人材育成の授業としていくため、更なる業界との連携が必要である。 ・学生が経験しただけの実施とならないよう、評価方法を検討するべきである。
【改善のための方策】	・ファッション業界と整合性をもったカリキュラムとしていくため、企業との連携を活用していく。 ・社会人基礎力の評価と作品評価に対しルーブリックを導入し、学生自身が成長を実感し、主体的に学習していく運営へ移行させる。（前年度より継続しての施策）
【関係者評価】	・ルーブリックの現状は3段階評価ですが5段階評価くらいにして学生が出来た所と出来なかった所をはっきりわかるようにするとよいでしょう。学生にとって自分を客観的に評価してもらうことはとても大切です。 ・評価項目も10個くらいにし、各問いの問いかけ方を『～できたでしょうか？』『どう思いますか？』などと学生が答えやすいように工夫すると良いと思います。 ・評価後の指導が肝心です。どのように学生を伸ばしてあげるか、その後のカリキュラムも必要となってくるでしょう。

基準 4 学修成果	
【現状と課題】	【現状】 ・前年度に引き続き、就職希望者に関しては全員就職することができている。就職が決まらなかった要因としては学生本人の意欲が不足し、活動が消極的であった。就職は最終的には学生自身の将来の事となるので本人達的意思を尊重し、自分のペースで行った結果であるが、就職に関して適切な判断ができない学生が出た際の指導強化はするべきであると反省が残る。 【課題】 ・生徒全員が第一希望の企業や職種に就業出来ることを目指した指導としていく。 ・就職に関して適切な判断ができない学生が出た際の指導強化。
【改善のための方策】	・業界全体で求人は増えても採用基準を下げているわけではないので、受験準備を整えることは必要である。引き続き、受験対策や少人数性を生かした個別指導の精度を上げていく。
【関係者評価】	・就職実績は非常に良いと感じました。 ・個人の適性に合わせて指導ができていると判断します。

基準 5 学生支援	
【現状と課題】	【現状】 ・メンタル的な不調や衝動的な進路変更に対して対策を行ったが結果として退学者数は残念ながら前年度を上回ってしまった。 ・奨学金の利用は近年多くなっているが、学校での利用枠から漏れることなく希望者は全員利用できている。卒業後の返還に関しても在学中から指導もしており、問題なく運用できている。 ・資格取得について、他校を見ているとファッション分野では資格取得にあまり熱心ではないが、本校は取得を勧めている。販売士2級を取得していたことで異例の昇進となった卒業生の成功事例もあり、今後も取得を強化していく。 【課題】 ・退学に関して、学生本人の健康問題や家庭・保護者の失業や離婚による経済的困窮による学費の未納の状況となり、学校としての対応の限界を痛感する事にもなった。
【改善のための方策】	・問題が大きくなる様、早期発見し『予防』の施策を引き続き努力する。
【関係者評価】	・解決が難しい問題もあるでしょうが、予防策で効果が上がるよう期待します。

基準 6 教育環境	
【現状と課題】	【現状】 ・ 専門的な製作設備やデジタルスキルのための設備である CG、CAD はリニューアルされ、業界でスタンダードとして利用されている機種での学習が可能となった。また、就職活動においてネットを利用しての応募手続き、書類提出が多くなりそれに応える設備として整備している。 ・ ファッション分野の学修として使用頻度の高いミシン設備については老朽化し修理対応が出来ない機種となっていたが、平成 27 年度から 3 カ年計画で全てのミシンをリニューアルする計画で動いている。 ・ その他、教室の老朽化したエアコンをリニューアルし快適な学習環境充実をはかった。 【課題】 ・ 各授業においてインターネットの利用が年々多くなっており PC 教室の利用が重なってしまう状況が出ている。
【改善のための方策】	・ 校舎内全ての教室でインターネットが利用出来る学内無線 LAN を整備する。
【関係者評価】	・ 学生に直接有益になることは優先的に整備してください。

基準7 学生の募集と受け入れ	
【現状と課題】	【現状】 ・体験入学参加者の感想から「単なる服作りの技術指導ではなく、社会で働く事を念頭に置いた教育である」と評価され、競合校と比較しても教育の質について優位であると認知されてきている。そして、その成果として微増ではあるが出願者も増えている。 【課題】 ・体験入学参加者自体を増やす施策が必要である。 ・継続している課題として、社会的に知名度が低いことは改善されておらず、周知活動は高校へのガイダンスが中心であり新しい施策が望まれる。
【改善のための方策】	・社会的知名度向上のため、高校や業界に向け本校の教育を知ってもらう機会を作る。 ・期間限定ショップ ファッションショーへ審査・評価を依頼 ・ロールプレイングコンテストの開催
【関係者評価】	・接客のロールプレイングコンテストは、学生のモチベーションアップになると考えられます。学外との交流を通じて少人数のデメリットを解消するとよいでしょう。 ・就職展示会などを行い企業にプレゼンする機会を作り、直接アイデアをいただく機会も作ると良いと思います。 ・高校生が武蔵野ファッションカレッジを目にする機会をもっと増やすべきです。たとえばインターネットのバナー広告や学外で行われている高校生のイベントに参加するのも有効でしょう。 ・他と同じことをしてもこれからは難しい時代です。高校生が作りたいものや、分野に特化した就職先でアピールする必要があります。

基準 8 財務	
【現状と課題】	【現状】 ・ 18歳人口減少の影響を考慮すると大幅な収入増は難しい状況である。教育機関といえども収支均衡が望ましい。学園では予算制度の見直しとして予算委員会が立ち上がり適正な予算分配を図っている。 【課題】 ・ 教育機関といえども収支均衡が望ましい。
【改善のための方策】	・ 収入増のための入学者を増やす努力と予算削減のため優先順位を精査した予算組みと予算執行を行う。
【関係者評価】	・ 予算システムも整備され適切な運用をされていると判断します。

基準 9 法令等の遵守	
【現状と課題】	【現状】 ・法令遵守は職員会議等、折に触れて法令遵守を教職員には徹底している。 - 扱いの多い個人情報では、学校法人後藤学園個人情報保護規程を定め、適切な保護に努めている。 ・職業実践専門課程認定校としての第三者評価を受ける予定であり、その準備を進めている。 【課題】 第三者評価に向けた準備
【改善のための方策】	第三者評価に向けた準備スケジュールの立案 ・教職員の自己評価レベルの向上の為に研修や勉強会へ積極的に出席。 ・分野別評価についての情報収集。
【関係者評価】	・近年の傾向で学校の事務的業務が多くなり負担が増えています。業務も多忙でしょうが第三者評価に向けて準備をしてください。

基準 10 社会貢献	
【現状と課題】	【現状】 ・豊島区主催のよさこい祭りやソメイヨシノ親善大使の審査員としての協力を継続して行っている。また、豊島区の関連の文化事業団体、財団法人としま未来文化財団とのパイプも出来ているので今後も学校の特性を生かした地域協力を継続して行っていく。 ・豊島区専修・各種学校協会（豊専各）や東京都専修・各種学校協会（東専各）に理事や評議員を派遣（前者は事務局も本学園で担当）。 ・豊島区の文化事業『国際アート・カルチャー都市実現』のための特命大使として理事長、本校校長が就任。 【課題】 ・学園で掲げる人格教育に重なる内容であると学校では捉え、ボランティア活動や地域や社会への貢献する意識を育成する仕組み作りが必要と考える。
【改善のための方策】	・『人格教育』の一環といえる内容であるので、カリキュラムで取り入れることを検討。尚、学園として『人格教育』の具体化に向けた委員会を設置し取り組みを継続中である。
【関係者評価】	・ボランティアへの取り組みは必要だと思います。周囲からは最初はアピールだと思われてしまうが、続けていると徐々に学生も周囲も関心を持ってくれると思います。 ・学生は近い年齢としか接点がない場合が多いです。大人の世界観に結びつきを就けてあげる事により価値観の向上に結びつくでしょう。

以 上